

校友会 史跡クラブ 行程表

日 程 2月28日(金) ≪雨天決行≫
活動場所 岩槻城址 ～ 岩槻人形博物館
集合時間:場所 9時10分(時間厳守):東武野田線大宮駅改札前
費用概算 交通費・入館料(約¥1000) 昼食代別途
行程概要 (午前) 大宮9:22 ～ 岩槻9:33
東武アーバンパークライン(野田線)
「岩槻人形博物館」(入館見学 約1.5時間) ～
「時の鐘」見学 ～ 岩槻城址公園
徒 歩
(昼食) 市民会館いわつき内「レストラン大手門」(予約なし)
(午後) 岩槻城址公園散策
城址公園13:59 ～ 岩槻駅14:06
コミュニティバス
※ 時間があれば、旧藩校「遷喬館」、太田道灌の菩提寺「芳林寺」にも
立ち寄りたいと考えています。
(帰路) 15:45 岩槻 ～ 15:53 大宮 16:00 大宮解散
東武アーバンパークライン(野田線)

● 岩槻と人形

江戸時代も後期となると、庶民の間でも「雛祭り」が行事として広まり、日本橋十軒店等に雛市や兜市が立つようになり、江戸で人形文化が花開きます。その供給地として、鴻巣や越谷等、武州の村々でも人形作りが始まる。城下町で日光御成街道の宿場町として発展した岩槻にも「雛屋」を名乗る家のあったことは確認されるが岩槻で人形作りが盛んになるのは、大正寺時代以降のことです。関東大震災や戦争で被災した東京の職人たちが流入したことも一因となって生産量が拡大し、高度経済成長期には一大制作拠点として人形産業を支えた。

2020年2月22日、この「人形のまち」岩槻に、人形文化を発信し、魅力を伝える博物館を目指して『岩槻人形博物館』が開館します。

○ 時の鐘

寛文11年(1671)岩槻藩主阿部正春が渋谷口に設置させたもの。鐘は享保5年(1720)に改鋳され、鐘楼は嘉永6年(1853)に建替えたもの。
市指定の有形文化財に指定され、毎日朝夕6時と正午の3回鐘撞きを行っている。

○ 岩槻城

古河公方足利成氏と関東管領上杉氏が争っていた(享徳の乱)室町時代の末期、太田道心・道灌父子が主君扇谷上杉持朝の命を受け、川越城・江戸城と共に同時期の長禄元年(1457)に築城した(最近では忍城の成田氏説が浮上している)。戦乱が相次いだ関東で目覚ましい活躍をした道灌は、勢力拡大を恐れた扇谷上杉の当主上杉定正に、文明18年(1486)相模の糟屋で暗殺された。その後、岩槻城は道灌の養子である太田氏末裔が治めたが、戦国期に入り台頭した北条氏に席捲され、江戸時代は徳川親藩の大名支配となった。明治に入り岩槻県となり、城は県庁舎として使用されたが、明治4年(1871)廃城となった。

○ 遷喬館

寛政11年(1799)に岩槻藩士だった児玉南柯が創設した私塾。後に藩校となり藩士の子弟が儒学を中心に学んだ。県内に現存する唯一の藩校。

○ 芳林寺(曹洞宗の寺院で大平山と号す)

太田道灌が暗殺された時、遺骨・遺髪を越生の龍穩寺と比企郡松山の地藏寺に納められたという。永正17年(1520)地藏寺が火災に遭い、岩槻城主太田資高が当地に移転し、永禄10年(1567)寺号を改めた。

持ち物等 歩き易い靴・健康保険証・雨具・カメラ・飲料・スイカ/パスモ